搾乳ロボ　パラレル型上回る
全道で導入33戸増え463戸　道農政部調査

2023年1月21日（土）

道農政部は、道内酪農家の搾乳システムの導入状況をまとめた。道内で導入されている搾乳ロボットは前年から33戸増え463戸となり、パラレル型の446戸を逆転した。新たなミルキングパーラー（搾乳室）整備では、８割が搾乳ロボットを採用しており、他の搾乳システムを上回った。十勝管内の搾乳ロボットは８戸増の130戸で、振興局別で最も多かった。

◆十勝は130戸　パラレル型179戸

道は毎年、２月１日現在のフリーストール牛舎とミルキングパーラーなど搾乳システムの導入状況を調べ、12月に発表している。

道内ではこれまで、乳牛の後ろから搾乳するパラレル型が最も多かった。近年は規模拡大が進む中で省力化が図れる搾乳ロボットの導入が進んできた。2021年２月の調査ではパラレルは447戸、搾乳ロボットが430戸だった。

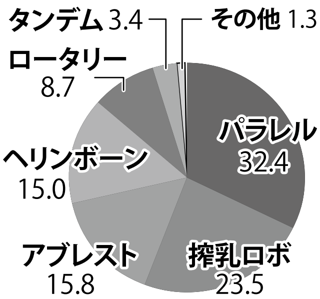
しかし、道内で21年度にミルキングパーラーを整備した41戸のうち、８割に当たる33戸が搾乳ロボットを採用。パラレル型は前年より１戸減少した。搾乳システムのうち搾乳ロボットは25.3％、パラレル型は24.4％を占めた。

飼育規模別では、100頭未満は平床式のアブレスト型が195戸（32.8％）で多く、100頭以上ではパラレル型（28.5％）と搾乳ロボット（28.4％）がほぼ並び、斜めに並べるヘリンボーン型（23.1％）が続く。特に300頭以上に限るとパラレル型（30.4％）、搾乳ロボット（26.2％）の次にロータリー型も21.9％と普及している。

十勝管内では、パラレル型が179戸と32.4％を占めて最も多かった。ただ近年は搾乳ロボットも増えてきて、15年度の62戸が21年度には130戸まで増えた。

同部は「15年度以降にミルキングパーラーを整備した酪農家では、搾乳ロボットが多くを占める。規模が大きな十勝はパーラーとフリーストール方式の牛舎の普及率が、全道の30％に比べて40％と高い」としている。

◇十勝管内のミルキングパーラーの型式別戸数



（単位・％。道農政部調べ）

十勝をはじめ全道で導入が進み、パラレル型を逆転した搾乳ロボット